150年間の思いを一つに　元街っ子
～つなげよう！　まちへ　世界へ　未来へ～

令和５年６月３０日

横浜市立元街小学校

令和５年度　学校だより　７月号

Tel　681-7810　Fax　662-5842
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motomachi/

言葉の力

校長　工藤雅彦

朝正門や南門で、安全見守りを兼ね、登校してくる子どもたちを迎えています。最近では子どもたちのほうから進んで挨拶をしてくれることが多くなりました。アクティブ交番の警察官の方からも、「元街小の子どもたちはよく挨拶をしてくれる。」との言葉をいただきました。つい最近では、低学年の子どもが私と挨拶を交わした後、「暑いですね。」と一言添えてくれました。挨拶を返すことから、自ら進んでの挨拶へ。そして挨拶プラス一言コミュニケーションへ。子どもたちの成長が感じられる元街小の校門前になりました。

さて、６月１３日（火）に『令和５年度よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト中区審査会』が、立野小学校体育館で行われました。このコンテストは、SDGｓに基づく１７の視点から、テーマである「国際平和のために、自分がやりたいこと」を制限時間内でスピーチの仕方にも工夫し、自らの意見を述べます。本校では６年生全員が原稿作成に取り組み、各学級代表３名による校内スピーチ審査を経て、6年生のストロムソッド茉弥エリーセさんが学校代表として参加しました。そのスピーチ原稿を紹介します。

「みんなの命を守るための第一歩」

「何を拾っているのかな。」私が鎌倉の海岸を家族と一緒に歩いているときのことです。二人の女性が大きな袋をもって、何かを拾っていました。貝殻を拾っているのかと見ていましたが、ずっと見ていたら、拾っているものは貝ではなくペットボトルやお菓子の袋でした。鎌倉は小さいころからよく行っています。海岸にごみが落ちているのは、私の中ではいつもの光景でした。だから、ごみを拾う女性たちを見て、不思議に思いました。

「汚いのにどうして砂に埋まったごみまで拾うのだろう。」母は「ごみが海に流されたら大変だからね。」と言っていました。その時の私は、母の言っていることがよく分かりませんでした。そこで、私は海のことを調べてみました。

海に落ちている何千万トンものごみは、私たち人間が捨てていること。また、そのごみを生き物たちが食べて死んでしまっていること。さらに、プラスチックを飲み込んだ魚を私たちが食べていることを知りました。

鎌倉の海で見たごみのこと、私の家の前にポイ捨てされていたお菓子の袋、ニュースで見たビニル袋を飲み込んだ亀のことを思い出しました。私は何千年もの間、人間とともに生きてきた海、そして、あの生き物たちが、今危ないということに気付いたのです。みんなの命を守るために私たちには何ができるのだろう。私やあの二人の女性だけでなく、世界中のみんなで協力して海を守り、海の生き物だけではなく、みんなが気持ちよく生活できる地球にしないといけないのではないかと考えました。

それから私は、海に行くときにも、山に行くときにも、必ずビニル袋を持って行くことにしています。家族で山に行ったときも、たくさんのごみが落ちていました。あの鎌倉の海のように。両親は私の考えを「いいね。」と言って、一緒にごみを拾ってくれています。

大好きな場所はずっときれいであってほしい。こう考えているのは、きっと私だけではないはずです。海の中の生き物もそうかんがえていることでしょう。私たち一人ひとりが、大好きな場所やみんなの命を守るためにできること。その第一歩は、自分の好きな場所に落ちているごみを拾うこと。私はこれからも続けていきます。

中区１０校の代表によるハイレベルなスピーチで、最優秀賞（区代表）にはなれませんでしたが、茉弥さんのスピーチは堂々としていて、何より身近な生活体験から課題を見つけ、自らの考えをもって普段から行動している様子が大変立派だなと感じました。

言葉には力があります。自分の考えや願い、夢や目標をできるだけ具体的に言葉に表し、話したり書いたりしてみるとよいです。思うだけより人に伝わり応援してくれたり、助けてくれたりする人が出てきます。願いや夢が叶いやすくなります。また、思うだけより自分の考えや目標に責任が持てます。感謝や謝罪の気持ちも言葉にしないと人には伝わりにくいものです。子どもたちは、食べることで身体がつくられるように、聞くことや読むことで心がつくられ、話すことや書くことで未来がつくられていくようにも思えます。

７月２１日（金）から８月２７日（日）までの３８日間、長い夏休みに入ります。学校を離れ子どもたちは各ご家庭や地域で多くの時間を過ごします。安全面や健康面について、大人の見守りや声掛けをどうぞよろしくお願いします。子どもたちには、健康安全に気を付け、有意義に楽しく過ごしてほしいです。また、復活されてきた地域行事などにも積極的に参加できるとよいです。